

# ZENBUTSU 全仏

ZENBUTSU

No.

632



仏暦 2560 年 9 月  
[2017 年]

## CONTENTS

- 【対談】玄侑宗久×東海林良昌…………… 2～4  
比叡山宗教サミット 30 周年記念  
「世界宗教者平和の祈りの集い」出席…………… 5  
第 2 回広報委員会開催  
全日本仏教会事業説明派遣のお願い…………… 6  
録事・平成 29 年 7 月九州北部豪雨に対する義援金のお願い…………… 7  
財団創立 60 周年記念式典  
第 44 回全日本仏教徒会議福島大会開催…………… 8



公益財団法人



全日本仏教会  
WFB (世界仏教徒連盟) 日本センター



## 何かを治すのではなく、一緒に悲しむ、喜ぶ

6年前に発生した東日本大震災は、被災地の人々に多くの悲しみや苦しみを深く刻みました。犠牲者15,894人、行方不明者2,550人（ともに平成29年6月9日警察庁緊急災害警備本部発表）、避難者は89,751人（平成29年7月28日復興庁発表）という数字は災害の規模だけではなく、計ることができない無数の悲しみや苦しみを表しています。

各地で発生している地震に限らず、様々な災害が起きている昨今、社会の一員である仏教者は、困難な状況の際にどのような役割が求められているのでしょうか。

東日本大震災復興構想会議委員でもあった玄侑宗久氏と、震災直後から被災者に寄り添う東海林良昌氏に、その思いを語っていただきました。

### 自然と付き合っていく

**東海林** 震災当日のことを振り返りますと、ちょうどお彼岸前でしたので、塩竈の自坊におりました。午後のお参りの方が何人かいらっしやるときに、急に経験したことがない揺れが来ました。その後、警報が鳴って、「六メートルの津波が来ます」というような放送を聞きまして、大変だと思っ反面、「そんなことあるのかな」とも思いました。

近くにある公的な避難所に大勢行かれましたが、お声を伺って、お寺と一緒に過ごした方もいらっしやいました。余震や津波がいつ起きるかわからない状況でしたので、夜だけお寺で過ごす方もいる中、食糧を分け合いながら十日間ほど過ごしました。

**玄侑** 東日本大震災発生後、余震が続く中で、何かが変わりましたよね。

**東海林** ええ。意識というか。

**玄侑** 「今後とも恐らくこれよりすごいことが起こる」ということに関して、「そんなはずあるか」とはだれも言わなくなりました。表現が乱暴ですが「自然をなめなくなりました」といえるのでしょうか。



震災当初から継続して支援活動をしている僧侶

福島の場合は、放射能という問題  
 が加わります。自坊が三春町の私は、  
 思いがけず復興構想会議の委員にな  
 りましたとき、一番申しあげたこと  
 は、神社仏閣がどれだけ大切な施設

かということでした。コミュニティ  
 にとって大切な場所であり、避難所  
 としても機能した寺院に対し、復興  
 する際の拠り所という観点を国にも  
 ってほしかったからです。

**東海林** 二本松  
 にある眞行寺の  
 佐々木さんから、  
 おじいちゃんか  
 山菜を取ってき  
 て「孫に食べさせ  
 たい」と言ってい  
 るのに、若い方は  
 「食べさせてはい  
 けない」という話  
 を聞いたことが  
 あります。

私はそのお話  
 を聞いて、デリケ  
 ートな内容を僧  
 侶に話すこと自  
 体に、僧侶やお寺  
 の役割を感じま  
 した。様々な悩み  
 や愚痴をお寺で  
 話す。または僧侶  
 や寺院に話す。そ  
 のような部分は  
 結構あったので  
 はないでしょう  
 か。「お寺に来る

と安心する」という言葉をよく聞い  
 たのは、そういうことも関係してい  
 るかもしれません。玄侷さんのおっ  
 しゃる拠り所という観点は確かにあ  
 ります。

**玄侷** 今回の震災や熊本地震でもそ  
 うですが、自然を乗りこなすことは  
 到底できないと感じます。一方で自  
 然をわかったようにみならず部分は、  
 やはり人間にはあるような気がしま  
 す。禅が身につくと、自然に組み込  
 まれるということがありますが、別  
 な面では自然をわかった気になりか  
 ねないということも言えると思いま  
 す。自然とは一生をかけて付き合っ  
 ていく相手なのでしょうね。

### 支援活動は宗派を越えて

**玄侷** 震災で非常に特徴的なことの  
 一つに、他宗教との連携が進んだこ  
 とがあります。震災によって大勢の  
 方が犠牲になった際、仙台仏教会が  
 「供養をしたい」と仙台市長に申し出  
 たところ、「仏教だけではだめです」  
 と言われたそうです。勿論すべての  
 場合がそのように指摘されたわけ  
 はなく、むしろ承諾してくださった  
 ケースが多いのですが、「一宗一派に  
 偏ってはいけない」ところによって、  
 連携をしていった面があります。

被災地だけではなく、鎌倉なども  
 宗教を超えた団体ができていると聞  
 いて、とてもよいことだと思えます。

**東海林** 私がおりました全日本仏教  
 青年会の場合で言えば、多宗派との  
 連携は様々な場面で感じていること  
 です。例えば、平成二十八年熊本地  
 震発生後、現地で支援活動を実施す  
 る際、浄土宗の物資を集積している  
 お寺で、ブルーシートの余剰がかな  
 りありました。物資について他の団  
 体に聞いたところ、日蓮宗でブルー  
 シートが必要だという情報をもらい  
 ましたので、融通した経験もありま  
 す。普段は一緒に活動することが少  
 ないのですが、東日本大震災以降、  
 特に支援活動の際には連携すること  
 が増えました。

### 技術だけではない支援

**東海林** 東日本大震災直後から、炊  
 き出し、瓦礫撤去、除染、子どもの  
 保養など僧侶が支援活動を各地で実  
 施しており、今でも継続しています。  
 そのような中で、被災地に赴き支援  
 活動をしたいと思っても行けないと  
 いうことがあります。当然、支援活  
 動を実施することが偉いということ  
 でもないわけですが、どこかで「ポ  
 ランティアをすること」への期待が

高まっている空気も感じます。

**玄侑** 支援活動については、各宗派の祖師をモデルにする部分はありませんね。日蓮宗の方は、「災害が起こった際に真っ先に動き出す宗派」という矜持を持っていらっしゃる。それは日蓮聖人の足跡から伺うことができます。先人を学ぶと動く方向も様々で、浄土真宗の蓮如上人は、応仁の乱で多数の遺体が川に浮かんでいるとき、全国のご門徒にあてた、いわゆる「白骨の御文章」という手紙を書いていたそうです。町には供養するお坊さんがたくさんいらっしゃった中で、蓮如上人は手紙をご門徒に送ることこそが、窮極の救済に結び付くのだという覚悟をもってらっしゃったのでしょうか。

**東海林** 震災でご家族が犠牲になられた方もいらっしゃる、財産を失われたという方もあり、事情は様々です。そのような中で、「寄り添う」という言葉は沢山の場所です使われています。「寄り添う」ということを表現すると、自身が経験してきたことは、相手の方と同じ気持ちになることは難しいですが、自分の中の痛みや苦しみを見据えながら、相手の方のお話を聞かせていただくことが大切なのかなと感じています。そうい

う意味では「臨床宗教師」や「臨床仏教師」が養成されている現状は素晴らしいことだと思えます。ただ、全員がその活動を志すこと

もないのではないかと思います。僧侶自身が何か治すということではなく、お隣の方と一緒に悩み、悲しみ、喜んだりすることが必要ではないでしょうか。相手の気持ちかわからない中で、意見を述べるのではなく、聞かせてもらう姿勢が、これからの僧侶には求められていると思います。同時に、自分の中の苦しみに向き合うことも重要です。

**玄侑** 何か東日本大震災以後というよりも、以前からしてきたことです



ね。確かに「臨床宗教師」などで、ある意味で技術を学ぶのは良いことだと思います。ただ、技術が解決することは意外に少なくて、技術を使う

う人間の人生がいかに深められるかが相手にとって非常に大きいと思います。そういう意味では、やはり宗祖の教えがとても大切です。

日本の仏教は天災人災も含めて、色々なことを経験し、そのような土壌で培われた部分があると思います。例えば年忌法要自体が、悲しみを「忘れること」と「忘れないこと」を両立させた、日本独特なものです。お仏壇で朝、お線香をあげて、いつもどおり会社に行くことも同じでしょう。その「忘れること」と「忘れないこと」というのが、被災地では共に必要なわけです。その点は各寺や僧侶がもう対応しています。だ

から、今までよりも自信を持って、自分の宗派の教えを話すということも大事でしょう。

### ●プロフィール

**玄侑 宗久** (げんゆう そうきゅう)

1956 (昭和31) 年福島県三春町生まれ。慶応義塾大学中国文学科卒業。京都天龍寺専門道場に入門。2001年『文学界』に掲載された『中陰の花』で第125回芥川賞を受賞。その後の小説作品に、『アミターバ 無量光明』(新潮社)、『御開帳綺譚』(龍の棲む家) (文藝春秋)、『祝福』(筑摩書房) など著書多数。臨済宗妙心寺派福聚寺住職。本会創立60周年記念式典講師。

**東海林 良昌** (とうかいりょうしょう)

1970 (昭和45) 年宮城県塩竈市生まれ。佛教大学文学部仏教学科卒業。同文学研究科修士課程修了。東北大学文学研究科博士課程後期単位取得退学。全日本仏教青年会前理事長。現在、全国浄土宗青年会参与、介護者サポートネットワーク・ケアむすび代表、佛教大学非常勤講師、浄土宗総合研究所研究員、浄土宗雲上寺副住職。

## 比叡山宗教サミット三十周年記念 「世界宗教者平和の祈りの集い」出席

八月三日から四日にかけて、比叡山宗教サミット三十周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」が国立京都国際会館、比叡山延暦寺にて開催され、本会からは小峰一允会長が出席し共に平和の祈りを捧げた。

比叡山宗教サミットは本年度で三十周年を迎え、全体テーマである「今こそ平和のために協調を〜分裂と憎悪を乗り越えて〜」のもと、諸宗教代表者が一堂に会し、キリスト教やイスラーム、仏教、神道、ユダヤ教、ヒンズー教、ゾロアスター教など、世界十八カ国から二十四人の海外招請者を含む国内の宗教者ら約二千人が出席した。

国立京都国際会館では、明石康氏（元国際連合事務次長）、ウィリアム・ベントレイ氏（WCRP 国際事務総長）が全体テーマをもとに発題する基調講演が行われた。また、シンポジウムでは「テロと宗教〜暴力的過激主義に宗教者はどう立ち向かうか〜」をテーマに、各国宗教者が平和への取り組みについて意見交換をした。分科会では「核廃絶と原子力問題を考え

る」を題材に本会から戸松義晴理事がパネリストとして登壇した。

比叡山延暦寺では「世界平和祈りの式典」が開催され、「平和の鐘」の鐘打後、天台宗青少年代表による演出のもと、参加者同が手を繋ぎ、平和の交歓を行なった。

式典の中、主催者代表挨拶として森川宏映天台座主が「本サミットを通じ、世界へ向けて相互理解と連帯こそが人類に平和と繁栄をもたらすものであることを示したい」と世界平和実現のため、共に歩みを進めることを述べた。



手を取りあう諸宗教代表者

## 第二回広報委員会開催

八月一日、京都各所において第三期第二回広報委員会及び関西圏記者懇談会を開催した。広報委員会は広報委員及び事務総局を含め十五名、関西圏記者懇談会はマスコミ各社を併せ二十三名が参加し、伝統仏教界広報の充実を念頭にした協議と加盟団体及び本会事業の説明をした。

広報委員会では、冒頭にNHK京都放送局を訪問し、企画編成部の中根氏の説明を受けながら、施設見学をした。実際のスタジオや副調整室を拝見し、様々な番組の配信方法や、実際の撮影時の様子を体験した。参加者からは「ニュース番組の見方が変わった」「広報担当者として知っておいてよかった」などの意見が聞かれた。

その後、龍谷ミュージアムに場所を移した広報委員会では、広報担当者同士の情報共有の方法や事項と、東京における情報発信について協議をした。委員からは「情報共有のための基盤を整備してほしい」「一般の方が知りたい情報の発信を進めてほしい」などの意見があった。委員会終了後には、龍谷ミュージアム内の

展示スペースを訪れ、テーマ設定のもと、様々な角度で切り取られた展示を拝見した。

関西圏記者懇談会は、京都宗教記者会を中心に、関西圏で活躍しているマスコミの出席者に対し、財団創立六十周年記念事業や仏教に関する実態把握調査について説明をした。出席委員の各団体の事業に関する広報媒体を紹介しながら、関西圏における報道の最新状況や伝統仏教界に対する要望を聞いた。



NHK京都放送局で記念撮影

# 全日本仏教会 事業説明派遣のお願い

全日本仏教会は伝統仏教界における唯一の連合組織として、仏陀の「和」の精神を基調に仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与することを目的とし事業を展開しています。

加盟団体および関係者の皆様から、「全日本仏教会の活動とは？」とご質問いただくことがございます。私たちの活動を解りやすく、より公益事業の活動へご理解ご協力をいただくために、本会では皆様のもとへ事業説明を実施しております。皆様の宗会や総会、その他会合等の開催時に是非とも私たちの活動の説明をさせていただきたく、ご案内申し上げます。

今後も、伝統仏教界共有の課題や時局対策をはじめとした諸事業を、皆様よりいただいた貴重なご意見をもとに推進して参る所存です。

## 事業説明派遣実績（平成29年度）

曹洞宗	東寺真言宗	福島県仏教会	茨城県仏教会
栃木県仏教会	東京都仏教連合会	神奈川県仏教会	静岡県仏教会
愛知県仏教会	大阪府佛教会	兵庫県仏教会	愛媛県仏教会
長崎県仏教連合会	福岡県仏教連合会	全日本仏教婦人連盟	全日本仏教青年会
東京ブディストクラブ	臨済宗妙心寺派（9月予定）	長野県仏教会（10月予定）	

敬称略・順不同

## 説明内容（一部抜粋）

公益財団法人全日本仏教会について

財団創立60周年記念事業について

宗教法人への厚生年金加入促進に関する説明について

包括宗教法人の監督責任について

大蔵経テキストデータベース運営支援事業について

仏教に関する意識調査について

など

※派遣に係る費用は本会で負担いたします。

事業説明に際し、15～20分程度のお時間をいただければ幸いです。

当日のスケジュールに沿って説明時間の短縮、詳細な説明など内容も含めてご相談いただければ幸いです。

お申込の際は、申込書を送付いたします。ご記入の上、FAXにてご連絡をお願いいたします。

## お申込・お問い合わせ先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階

TEL：03-3437-9275 FAX：03-3437-3260

**公益財団法人 全日本仏教会**

総務部（西岡）

# 事務局録事

## 7月(1日~15日)

- 1日 ▶白石・遠刈田仏教会訪問 宮城・延命寺
- 2日 ▶宗教者災害支援連絡会第30回情報交換会出席  
東京・東京大学仏教青年会ホールA・B
- 3日 ▶兵庫県仏教会理事総会出席  
兵庫・神戸メリケンパークオリエンタルホテル
- ▶日本コムシス(株)来局 事務局
- ▶日タイ修好130周年記念特別展タイ〜仏の国の輝き  
〜開会式出席 東京・東京国立博物館
- ▶栃木県仏教会研修会出席 栃木・ホテルニューイタヤ
- ▶長崎県仏教連合会総会研修会出席 長崎・ホテルニュー長崎
- ▶東京ブリストクラブ月例会出席 東京・帝国ホテル
- 4日 ▶出向宗派事務連絡会開催 京都・浄土真宗本願寺派宗務所
- 5日 ▶福島実行委員会出席 福島・郡山ビューホテルアネックス
- ▶(株)朝日新聞社藤生氏訪問 東京・朝日新聞本社
- 6日 ▶局内会議 事務局
- ▶第32期第2回社会・人権審議会開催 事務局
- 7日 ▶(株)ディー・エイ・ティ・コーポレーション北川氏来局  
事務局
- ▶工藤副会長訪問 青森・本迹院
- ▶「薬師寺声明の世界」出席 京都・龍谷大学深草学舎
- 10日 ▶局内会議 事務局
- 12日 ▶山口泰明衆議院議員来局 事務局
- ▶(一財)100万人のクラシックライブ養田氏他来局 事務局

## 7月(16日~31日)

- 19日 ▶キャンノンマーケティングジャパン(株)深谷氏他来局  
事務局
- ▶(株)中外日報社赤坂氏来局 事務局
- ▶大和証券(株)佐藤氏来局 事務局

- ▶全日本葬祭業協同組合連合会松本氏来局 事務局
- 20日 ▶浄土真宗本願寺派木下氏訪問 大阪・本願寺津村別院
- ▶比叡山宗教サミット30周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」第6回事務局会議出席 滋賀・天台宗務庁
- ▶(株)ディー・エイ・ティ・コーポレーション北川氏他来局  
事務局
- 21日 ▶(株)仏教タイムス社工藤氏来局 事務局
- ▶山口泰明衆議院議員訪問 東京・自由民主党本部
- ▶凸版印刷(株)保坂氏来局 事務局
- 24日 ▶浄土真宗本願寺派黒田氏訪問 鹿児島・本願寺鹿児島別院
- ▶FTエナジー(株)来局 事務局
- ▶朝日ビジネスソリューション(株)渡辺氏来局 事務局
- ▶浄土宗総合研究所公開講座出席 京都・浄土宗教化研修会館
- ▶福岡仏教連合会研修会出席  
福岡・セントラルホテルフクオカ
- 25日 ▶上智大学島藺氏訪問 東京・上智大学四谷キャンパス
- 26日 ▶全日本仏教青年会倉島氏他来局 事務局
- ▶局内会議 事務局
- ▶(公社)全日本仏教婦人連盟理事会出席 東京・天王寺
- 27日 ▶臨濟宗妙心寺派玄侑氏訪問 福島・福聚寺
- ▶第34回庭野平和賞授賞式出席 東京・国際文化会館
- ▶浅草仏教会吉水氏他来局 事務局
- ▶(株)ハイパーク保氏来局 事務局
- ▶第32期第3回人権問題連絡協議会  
東京・人権ライブラリー
- 28日 ▶(株)ディー・エイ・ティ・コーポレーション北川氏他来局  
事務局
- ▶(株)中外日報社赤坂氏来局 事務局
- 31日 ▶浄土真宗本願寺派安永氏訪問 東京・築地本願寺

## 平成29年7月九州北部豪雨に対する義援金のお願い

この度の九州北部豪雨により犠牲になられた方々、ご遺族の方々に衷心より哀悼の意を表し、困難な生活を強いられているすべての皆さまに心からお見舞い申し上げます。

本会では、九州北部豪雨により被災した方々への支援を行うため、義援金を募集しております。お預かりした義援金は、現地の被害状況に鑑み、関係機関及び現地救援活動団体へ寄託いたします。つきましては皆さまの温かいご支援の程、ご協力をお願い申し上げます。

【郵便振替口座】	口座番号	00110-9-704834
	口座名義人	全日本仏教会救援基金



●本会「救援基金」への寄附は東京都の条例指定対象寄附金です。寄附を行った個人・法人の方は、所轄の税務署へ本会発行の領収証を添付して申告することにより、所得税の寄附金控除の適用が受けられます。

●お問い合わせ先 全日本仏教会 財務部 TEL 03-3437-9275

全日本仏教会財団創立六十周年記念

第44回

# 全日本仏教徒会議

# 福島大会

— 縁をかたちにし、絆を行動に  
— 私からはじまる —



平成29年

10月13日(金)

14:00 財団創立60周年記念式典・法要



会場/ホテルハマツ

福島県郡山市虎丸町3-18  
電話: 024-935-1111

※13日は寺院関係者のみ

10月14日(土)

8:30 開場

9:30 復興祈念法要

10:30 開演「加藤登紀子さん・お話と歌」



会場/ビッグパレットふくしま

福島県郡山市南2丁目52  
電話: 024-947-8010

※一般参加歓迎(事前のお申し込みが必要)

参加無料:どなたでも参加いただけます。



ゲスト 加藤 登紀子さん

1965年歌手デビュー。1966年「赤い風船」でレコード大賞新人賞、1969年「ひとり寝の子守唄」、1971年「知床旅情」でレコード大賞歌唱賞を受賞。多くのヒット曲を世に送り出してきた。近年は、FUJI ROCK FESTIVALなど野外フェスにも意欲的に挑戦し、世代やジャンルを超えた活動で注目を浴びている。歌手活動以外では女優として「居酒屋兆治」(1983年)などに出演、宮崎駿監督のアニメ映画「紅の豚」(1992年)では声優としての魅力も発揮した。今年12月15日(金)仙台新会館で「ほろ酔いコンサート」を行う。

主催/公益財団法人全日本仏教会・福島県仏教会

2017年9月1日発行  
9月号 第632号

全仏

発行人 久喜 和裕

発行所 公益財団法人 全日本仏教会

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階 TEL 03(3437)9275 FAX 03(3437)3260

印刷所 ティケイ ヘンデル アート